

学校運営協議会議事録

校名	府立泉陽高等学校
校長名	栗山 悟

開催日時	令和7年 10月9日(木) 14:00 ～ 15:00
開催場所	泉陽高等学校校長室
出席者(委員)	瓜生 彩子 委員長 ・ 福井 隆一郎委員 ・ 志賀 亮子 委員 丸井 理恵 委員 ・ 江本 真樹子 委員
出席者(学校)	栗山校長、荒木教頭、明山首席、藤林首席、野坂教務部長
傍聴者	0名
協議資料	普通科改革の概要、スクールポリシー改定案、学校特色枠選抜について
備考	

議題等(次第順)
・令和8年度 教科書採択の報告 ・学校教育自己診断の実施について ・各学年・分掌より、前期の教育活動・行事実施状況について書面による報告
協議内容・承認事項等(意見の概要)
協議内容:「学校特色枠選抜とアドミッション・ポリシー改訂について」 【普通科改革の概要について】 ・普通科の多様化に伴い、本校では学際領域の学科として「文理探究科」設置を予定している。 ・令和10年度入試から「学校特色枠選抜」制度を導入予定であり、アドミッション・ポリシーとの整合を図る必要がある。 【アドミッションポリシーの改定案】 ・現行ポリシーのキーワードである「進取果敢」を「何事にも前向きで新たな価値創造に果敢に挑戦する」とし、中学生にわかりやすい表現に改定する案が提示された。 ・「中学校以外の活動」という表現について、「様々な活動」と包括的に表現する方向で意見が一致した。 ・中学生にもわかりやすい言葉遣いであることが望ましいと確認された。 【学校特色枠選抜について】 ・特色選抜はアドミッション・ポリシーに基づき、全募集人員の10～50%の範囲で設定可能。 ・学校ごとに最大3種類まで設定でき、学力検査・面接・作文・調査書等を組み合わせる形式。 ・英語資格(英検等)による加点ではなく、当日の学力検査の成績を活用する方向で意見が一致。公平性と努力の継続性を重視する方針が支持された。 ・学力検査重視を求める意見が多く、調査書の扱いについては意見が分かれた。「努力の過程を評価すべき」という意見もある一方、「(調査書が選抜の材料になることで)中学1、2年次の成績によって進路が固定されることがある。中学3年次に成績が伸びた生徒にとっては特色枠で調査書を用いない枠があれば思い切ってチャレンジしやすい」との意見の両方が出された。 ・募集割合については、10%では挑戦意欲を喚起しにくいとの指摘があり、割合設定についても今後の課題となった。

次回の会議日程	
日時	令和8年 2月 12日(木)15:20～
会場	泉陽高等学校校長室